

阪神・淡路大震災、図書館を直撃

図書館の被害状況・第二報

1月17日未明発生した阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）による被害は、阪神・淡路地域の各図書館にさまざまな面で深刻な打撃を与えている。この被害については、2月号本誌NEWS欄でも第一報をお伝えしたが、その後も日本図書館協会には各図書館の被害状況に関する情報が数多く寄せられた。

また、協会では、2月号でお知らせしたとおり、被災個人会員へのお見舞いの募金、図書資料等の援助および復旧のためのボランティアの募集を行うとともに、協会施設委員会委員による被災地図書館の建物・設備を中心とした被害状況の調査に乗り出している。

なお、被災地域の図書館への援助等については、全国から多数のお問い合わせや具体的な援助・協力のお申し出をいただいているが、被災地では今なお困難な状況が続いており、また、情報についても正確な情報が伝わらなかつたりと、錯綜した状況にあるため、拙速な対応はかえって現地にいっそうの混乱を招くおそれがある。そのため、協会としては今後、関西地区在住の役員を組織し援助対策に関する窓口を設け、現地の援助要請に関する正確な情報を把握したうえで、具体的な援助対策を立てていけるよう準備中である。したがって現在は、全国からのお申し出について即応できない状況にあるが、この点については、皆さまのご理解をいただきたい。

2月1日現在、協会が把握した各図書館の被害状況については、以下のとおりである。

* * *

●兵庫県—公共図書館

神戸市立中央図書館 旧館は使用不能の状態。新館の建物への被害は大きくはなかつたが、地下にある電動書庫の被害が甚大である。

神戸市立灘図書館 屋上にある給水タンクのタワーが倒壊し、館内に水が流入、図書の三分の二は使いものにならなくなった。立入禁止の状態で、開館のめどはたっていない。

神戸市立北図書館 近々開館の見込みだが、具体的日程は不明。

神戸市立三宮図書館 火災の被害は免れたが、建物は亀

裂が入るなど被害は甚大。ビル自体が傾いている。神戸市立長田図書館 100メートル近くまで火災が迫ったが、焼失・倒壊は免れた。しかし、建物外壁の被害は甚大で、内部は立入禁止で確認できない状態。再建は不能と思われる。

神戸市立新長田図書館（新館準備中） 建物は無事。書架・図書等の備品・資料はまだ入っていなかったため被害はない。

神戸市立西図書館 近々開館の見込みだが、具体的日程は不明。

神戸市立東灘図書館 被害は比較的軽微。

神戸市立須磨図書館 住民の避難所（約200人）となっており、開館のめどはたっていない。散乱した図書を書架に戻す前に住民が避難してきたため、床に落ちた本の上に毛布を敷いている。このためかなりの図書・資料が使いものにならなくなったと思われる。

神戸市立垂水図書館 近々開館の見込みだが、具体的日程は不明。

兵庫県立図書館 建物の倒壊は免れたが、外壁はレンガが落下、もしくは浮き上がった状態。内部も壁に亀裂が入った。開架図書の大部分が落下、閉架書庫は下部が冠水し、それぞれ復旧の作業中。開館のめどはたっていない。

明石市立図書館 建物は外壁に亀裂が数カ所あるが、比



▲芦屋市立図書館は住民の避難所となっている



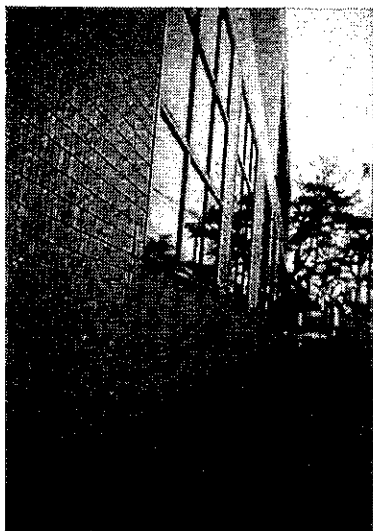
▲伊丹市立図書館ではスチール書架が倒壊全滅

較的被害は軽微、しかし、駐車場は大規模な地割れを起こしている。閲覧室は床に亀裂が入り、段差が生じている。図書18万冊（閲覧室14万冊、書庫2万冊、BM書庫2万冊）が落下。設備・備品では、書架の損傷、水槽・クーリングタワーが破損し、暖房が使用不能。1月24日より通常開館の予定。

芦屋市立図書館 本館は、窓ガラス1枚が損傷、敷地内に亀裂が生じた。開架図書の約半数（約9万冊）が落下、電算端末機の数台が損傷。二つの分室もほぼ全冊が落下した。また、本館は避難所になっており、開館のめどはたっていない。職員は24時間体制（女子職員は12時間）の2名勤務で避難所の世話を当たっている。なお、避難所の責任者は図書館長である。

尼崎市立中央図書館 建物は外壁に亀裂。3階の参考室の全図書約2万冊、地下1階の郷土資料・雑誌約1千冊が落下・散乱。1月20日以降開館。

尼崎市立北図書館 1・2階の図書、身障室のカセットケースが落下・散乱。書庫のうち2階のスチール書架が斜めに倒れ、図書約4万冊を山積みになっている。1月20



◀西宮市立図書館では館前の歩道が陥没し、レンガブロックに段差が…

日以降開館。

伊丹市立図書館 書架は全滅、使用不能。2階のスチール書架はねじれて倒壊、1階児童室、行政資料室は冷却水管破裂のため浸水し、約1万冊の資料が汚損した。3月末の開館を目指しているが、現在は返却のみを受けている。また自習室のみ1月23日以降開室している。

川西市立中央図書館 書架が横転し図書が散乱。視聴覚機器・コンピュータも横転、電動書架は作動不能。その他、消防設備等の甚大な損傷あり。1月27日以降開館の予定。

三田市立図書館 図書が散乱したが、すでに復旧開館。

洲本市立図書館 被害は軽微、開館中。

宝塚市立中央図書館 一般書架・児童室等の書架のうち三分の一が横転、図書が散乱した。カウンター内の端末1台が落下・破壊。地下に埋設してある高圧受電ケーブルが焼け切れたため館内が停電。また、館内の上水配水パイプ1本が破裂し、機械室と市史資料室に水漏れが発生した。その他、展示ケース、ロッカー等の備品も横転破損した。

西宮市立図書館 建物の被害はなし。内部は、1・2階とも書架が転倒、カウンター上部のサイン板が落下。図書館前の歩道が陥没している。1月28日以降住民の避難所となっており、復旧開館はめどがたない。

一宮町立図書館（淡路島） 図書館は公民館の2階にあり、倒壊はしていないが、余震の程度によっては崩壊の危険性があるため、立入禁止の状態。内部は図書が落下散乱している。

津名町立図書館（淡路島） 比較的被害は軽微、1月26日より開館。

北淡町立図書館（淡路島） 建物は無事だったが、住民の避難所になっており、床に図書を敷きつめてその上に毛布を敷いている。開館のめど立たず。

三原町立図書館 被害はほとんどなし。17日より開館している。

猪名川町立図書館 図書が散乱したが、復旧し平常どおり開館中。

*

●大阪府・京都府一公共図書館

大阪府立中之島図書館 書庫内の書架がねじれて転倒、図書が多数落下。まだ利用できない部分もあるが、1月23日より開館。

大阪府立夕陽丘図書館 建物・蔵書の被害なし。1月23日より平常開館中。

大阪市立中央図書館 図書が落下。2日間休館したが、1月19日より開館中。

茨木市立図書館 中央図書館は無事、分館・分室は書架が転倒した。

門真市立図書館 書架が転倒、図書が散乱した。スチール書架は破損し多数が使用不能。



▲平行四辺形のように歪んだ大阪府立中之島図書館の書架

- 吹田市立図書館 書架が倒壊。調査中。
- 高槻市立図書館 ガラス破損、書架等が倒壊した。
- 摂津市鳥飼図書センター 図書資料が落下散乱。
- 島本町立図書館 書架等が倒壊した。開館しているが貸出は中止している。
- 豊中市立図書館 書架等が倒壊。臨時休館した。
- 池田市立図書館 4館とも壁に亀裂、書架等が倒壊。臨時休館した。
- 箕面市立図書館 書架転倒、図書が落下散乱。
- 豊能市立図書館 ガスが停止、臨時休館した。
- 枚方市立図書館 被害なし。
- 熊取町立図書館 図書が落下した程度。被害軽微。

京都府立図書館 書架から図書が若干落下した程度。また、府内各図書館も大きな影響はなし。

*

●大学図書館一兵庫

- 神戸大学図書館 中央図書館は図書が散乱し、電動集密書架も寄りかかるような形で転倒、建物にも亀裂が入っている。書庫内も鉄骨が出がっている状態。人文社会系図書館については状況不明。自然科学系図書館は、ドアがロックされており、内部の被害は不明。
- 神戸商船大学図書館 建物の外見上は特に異状なし。内部は書架等のほとんどが横転し、図書が散乱している。また、避難所になっており約1200人が避難している。
- 兵庫教育大学図書館 図書約1千冊が落下。
- 神戸商科大学図書館 約10万冊の資料が落下散乱。一部書架倒壊、電動書架故障、タイルに亀裂等。
- 兵庫県立看護大学図書館 壁に亀裂が入った。雑誌架が転倒、約1400冊の雑誌が落下、図書も約250冊が落下した。その他、書架等備品の転倒、資料落下あり。1月24日以降閉館。
- 芦屋大学図書館 電話不通。新聞紙上に「当分の間休校とする」旨の広告が掲載された。
- 英知大学図書館 図書等が落下散乱。
- 大手前女子大学図書館 被害状況調査中。
- 関西学院大学図書館 中央館の建物は無事だが、内部は書庫内が倒壊、特に電動書架の損傷が甚大。マイクロ資

<阪神大震災レポート>

まさかの出来事

伴 潤子

この原稿を書くにあたって、地震後の図書館を思い浮かべてみた。床に散乱した本、倒れた書架を漠然と思い出せても、いったいどの程度の本がどの書架がそうなったのかを明確に示すことはできない。写真を見ながらようやくああそうだったと確認できる。

さて、わが図書館は斜面に建っており、地下3階・地上4階の縦長の建物で、地下は書庫、半地下の1階は事務室と書庫、2・3階が閲覧室、4階が自習室となっている。まず、1階事務室ではスチール製書架28本中8本が転倒。もともとあまり安定のよいものではなかったので、当然というべきか。2階閲覧室ではスチールに木枠をはめた7段書架は

倒れはしなかったものの、7～3階目までの図書は概ね床に散乱し、驚いたことには、厚さ数センチの本がところどころ床と書架の間に挟まっていた。3階閲覧室では、2階と同じ7段書架が6本中2本倒れ、参考図書を排架した低書架も16本中4本が、木製の蓋つき雑誌架は4本全部が転倒。4階の自習室には特に被害は見当たらなかった。

地下書庫はすべて集密式電動書架である。地下1・2階は書架と書架の間が少しずつ開いて、その間に数冊の本が落ちる程度であったが、地下3・4階の書架は10センチほど傾いており、専門家が調査した結果、立入禁止となってしまった。地下3階は9段の高書架で製本紀要が

ぎっしり詰まっていたために、また地下4階は6段書架だが大型本がこれまたぎっしり詰まっていたために、被害が大きかったと思われる。さらに当館では神戸のポートアイランドの倉庫に約1万冊の図書を預けており、これも出納不可能となってしまった。復旧は、まず開架閲覧室から散乱した資料を拾い上げ大まかに配列して、4日目より開館。

以前から「地震がきたら危ないねえ」などと話してはいたが、対策を講じていなかった。まさかの出来事である。茨木市は震源地より離れており、当日電車が止まったことと一部地域の断水を除けば大きな被害はなかった。それでさえ図書館にこれだけの被害が生じたのである。もし開館時間であったらと思うとゾッとする。今後の早急な対応が必要である。

(1995.2.10受付)

(ばん じゅんこ：

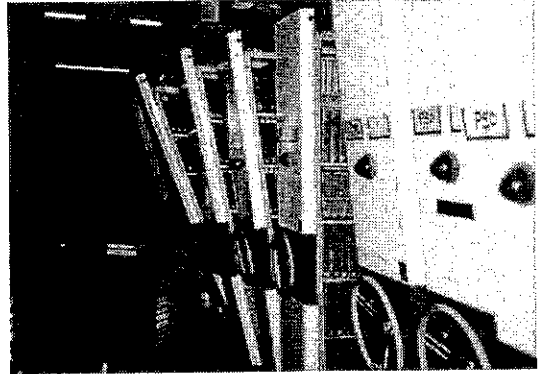
追手門学院大学図書館)



▲落下散乱した図書（神戸商船大図書館）

料・古文書類の被害も大きい。復旧作業中だが業務再開は未定。産業研究所図書室では建物の一部に被害。理学部図書室では、学部の建物で薬品破損等による出火のおそれがあり、危険な状態。

甲南大学図書館 被害の中心地にあり、大学自体は石作りの古い建物が半壊し立入禁止の状態。図書館の建物は



▲使用不能となった電動集密書架（神戸商船大図書館）

無事のようなが、内部はボルトで固定してあった書架も転倒し図書が散乱。また、避難住民約800人を学内に受け入れていて、当分休校する予定。

甲南女子大学図書館 外部の被害は特にない模様。図書館内部は混乱している。当分休校することを決定。

神戸学院大学図書館 図書等が落下散乱。

<阪神大震災レポート>

阪神間の図書館は被害甚大

二宮博行

1995年1月17日の阪神大震災による被害は、神戸・大阪間は言うに及ばず、大阪から明石までの広範囲にわたって学校・公共図書館にも及んだ。

私の勤務校では、建物そのものは無事だったものの、約2万冊の本がほとんど書架から飛び出し、書庫は足の踏み場もない状態になった。書

架を固定している倒壊防止用の鉄製パイプまでが壁を突き抜け、床据え付けの両面6連書架の6本全体が傾いた。固定していないものはすべて倒れ、地震の力のものすごいエネルギーを感じさせられた。壁や書架の修理は業者がいつ来てくれるか分からず、本を分類しなおして元の状態に復旧するには、どのくらい時間が

かかるか全く予想もできない。閲覧室だけの部分開館を試みたが、資料を移動しておく作業スペースが確保できないため、職員会議の了解をえてやむなく当分の間、休館とした。

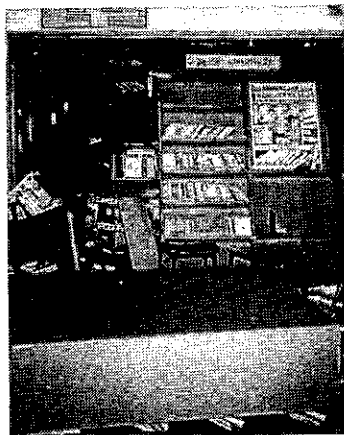
また、伊丹の高校では倒れた本の上に漏水があり多くの資料が水びたしとなって使用不能となった。こんな状態の中でも、一部の学校では、生徒やボランティアの力でいち早く復旧し、すでに日常の図書館活動を再開しているところもある。

しかし、西宮・芦屋・神戸の学校では、学校自体が避難所になっているところも多く、職員も避難者の世話でとても図書館の復旧までは手が回らない状態である。だが、まだ司書のいる高校は良いほうで、小・中学校では人手もなくそのまま放置されている学校もあると聞く。

このままでは、日常の図書館活動ができないばかりか、年度末の蔵書点検や新入生へのオリエンテーションなど、新学期になっても大きな支障がでることは避けられない。他の学校も同じような状況である。

(1995.2.8受付)

(にのみや ひろゆき：
兵庫県立尼崎北高校図書館)



▲ぱったりと横転した雑誌架



▲書庫では書架全体が傾斜

神戸薬科大学図書館 外部の被害は特にない模様。図書館内部は混乱している。当分休校することを決定。
 武庫川女子大学図書館 図書は落下したが、周到な設計と建設により建物等の被害はない。(なお2月号NEWS欄で書庫倒壊・当分復旧不可能と報じたが、後日これは誤報と判明した。関係各位に深くお詫び申し上げます。)
 神戸文化短大図書館 被害は問題のない程度。
 神戸女子短大図書館 被害状況不明。
 神戸山手女子短大図書館 書架の三分の一が倒壊。建物自体は無事。

*

●大阪府一大学図書館
 大阪大学図書館 開架図書は書架が転倒し散乱。数十か

所の窓ガラスが破損、書庫棟壁面に亀裂を生じた。
 大阪外国語大学図書館 書架上段の図書が落下。
 大阪教育大学図書館 中央図書館・天王寺分館とも被害なし。
 大阪府立大学図書館 書架から図書が落下した程度。特に問題はない。
 大阪医科大学図書館 被害は軽微。
 大阪学院大学図書館 開架書架に小さな歪みが多発発生した。開架図書の多数が落下。
 大阪経済大学図書館 書架の一部に歪みが発生。コンピュータ関係の被害は問題なし。
 大阪薬科大学図書館 書架から図書が落下した程度。特に問題はない。

*

阪神間の被災地域の図書館からすれば、本校の図書館の被害は取るに足りないものだが、定位置をずれた書架を元に戻したり、凹んだ書架を交換するには、いったん全部、本を取り出さねばならないし、「ほり込まれた」本は分類も方向すらもメチャメチャであり、たかだか7, 8千冊でも、一度に並べ直すには驚くほど場所がある。しかも、それを含め、概ね一人の作業である。

26~27日まで授業利用が入っており、机が使えなかったため、本格的な作業に入ったのはその後である。避難所に身を寄せている境遇の人々からはお叱りを受けそうだが、北風の吹きつける陽のあたらない図書館に、申しわけ程度のストーブ2台では冷え込みが厳しく、本を抱えて動いていても冷え冷えとする。また、他の仕事もあるので、そればかりをやっているわけにもいかないし、第一、気が滅入る。

2月に入り、進路の決まった3年生の図書委員4, 5人が2日ほど手伝いに来てくれ、ようやく廊下側の書架が元のように整った。しかし、壊れた書架の部品を交換し、転倒防止金具を取り付けたりして、すべての書架が整うにはまだ当分かかりそうである。今日も作業を続けている。

(1995.2.7記)

(せらた じゅんじ)

大阪府立高槻北高校)

<阪神大震災レポート>

「阪神大震災」をめぐって

世羅田順治

第2土曜、成人の日、振替休日の三連休が明けた朝、5時半すぎに目を覚ました。少し気だるく、横臥したまま時計の針を見つめていた。それはベルとほぼ同時だった。ベルに手をやる前にテレビのスイッチをひねった。大阪の東部、生駒山麓の自宅は大きく揺れはしたが、幸い何の被害もなく地震は去った。

自宅を出るまでに流れてきた情報で、神戸の「震度6」は伝えられていたが、具体的な被害の情報はほとんどなく、いつもの時間に玄関を出た。マンションのエントランスホールを出たところで、階下の家人が戻ってきた。電車が止まっているとのこと。そこで、私も自宅に戻った。

その後はテレビをずっと凝視していた。刻々と映し出される被害の状況に目を覆う。午前中数回、学校へ電話をかけたが全くつながらない。結局、大阪市内から学校までの通勤・代替経路とも交通が遮断されており、一日中、自宅に留まることになった。豊中の実家とは夕刻連絡がとれた。相当散らかっているとのこと。幸い、怪我はなかったようだ。

*

翌日、交通の混乱を予想して、30分ほど早く自宅を出て出勤した。高

槻駅から学校までの間、テレビで見た阪神間の凄惨な被害とは比較にならないにせよ、瓦が落ちた家、倒れた塀がいくつもある。学校も玄関の窓ガラスに大きなひびがいくつも入っている。プールが割れて水が抜け、体育館の横には段差もできている。

司書室に入ると、どの机もロッカーも定位置をばらばらに10~15センチくらいはずれている。もちろん物も落ちている。新聞縮刷版13年分の入ったスチール書架は左右に揺すられて5~10度傾いて平行四辺形になっている。閲覧室は7~8割の書架が倒れ、多くがぶつかり合って凹んだり、棚板が歪んでいる。これが、生徒の大勢いる昼休みなどでなくてよかった。

壁際の書架は、購入時に納入会社から転倒防止金具の取り付けはできないと言われたことから、「それならば、施設に傷をつけてまで付けることもない」ということになったのだそうである。「関西には地震はない」との俗説を信じてのことであろう。そのため、ほとんど倒れた。結局、当日の出勤者が10人ほどで、とりあえず書架を起こして、散乱した本を「ほり込んだ」とのこと。

<阪神大震災レポート>

としょかん CHATTERBOX への投書から

《何かできることがあれば……》

●伊藤誠一郎

阪神大震災にて被災されました皆さまには、お見舞い申し上げます。

ところで、被災地域の図書館はどうなっているのでしょうか。図書館の職員はどうしていらっしゃるのでしょうか。まだそこまでの情報は、マスコミを通じてわれわれまでには伝わってきません。

そこで、日図協にお願いがあります。被災地域の図書館の現状を調査してください。そして、被災地域の方々に対して、また、被災地域の図書館に対して、被災を免れた図書館は何ができるのかを調査してください。

今回の大震災のような時には、図書館とはなんと非力なのであります。貧弱な頭で考えてはみるのですが、図書館に義援金箱を設置する程度のことしか、まだ思いつきません。まずは人命、まずはライフラインの復旧、まずは衣食住、当然のことです。阪神地域での図書館等の文化施設の復旧は、おそらくその後のことでしょう。

たとえその時でも、きっとわれわ

れ図書館人がお役にたてる何かがあるとは思いますが……。

住民のための図書館が、お役にたてる何かがあるはずです。全国の被災を免れた図書館で、たとえ小さなことでも、何かしてみましょう！(投稿が遅れたことを、恥じながら……)

(1995.1.25)

(いとう せいいちろう)

愛知県・武豊町立図書館

《評議員選挙、繰り延べを》

●藤井千年

今回の阪神大震災により、阪神間の各図書館も相当の被害を受けました。

尼崎北図書館では、2階書庫のステール書架がへなへなと曲がって、ほとんど全部入れ替えが必要です。中央図書館は、参考図書が落下して相当数破損しましたが、3日後より開館してがんばっています。

芦屋市立図書館は、近くの住民の避難所となりましたので、数百人の方が避難生活をしており、その方たちのお世話で手いっぱいのため、書架から落ちた本の整理すらなかなか手がつけられず、開館の見込みはたちません。

西宮市立図書館も書架が倒れたり、受付カウンター上部の天井(庇)が落下したり、大変でした。

そこで、お願いがあります。そんなわけで、評議員の選挙は投票率が悪いと思いますので、この地区は、再投票の措置をお願いします。(私も気がついたらすでに期間を過ぎていました。)会員の何人かは、自宅が全壊・全焼、避難所暮らしの人もいます。

(1995.1.31)

(ふじい ちとし:神戸大学)

《何かアドバイスを！》

●松本真理子

阪神大震災のため、当兵庫県立衛生研究所疫学情報部図書室は、ほとんどすべての書架が倒れました。

一部配架図書は、水や薬品にまみれ、捨てなければならないものも数多くあります。

今日初めて、女子職員の図書室と書庫への入室が認められました。書架が「ドミノ倒し」状態になっていました。

どこから何をすればよいのかわかりません。当研究所では、あと1か月ぐらいの水道・ガスの供給は受けられそうにありません。

何かアドバイスをお願いします。

(1995.2.2)

(まつもと まりこ:兵庫県立

衛生研究所疫学情報部図書室)